Hitachi Koki

日立ベンチ丸のこ

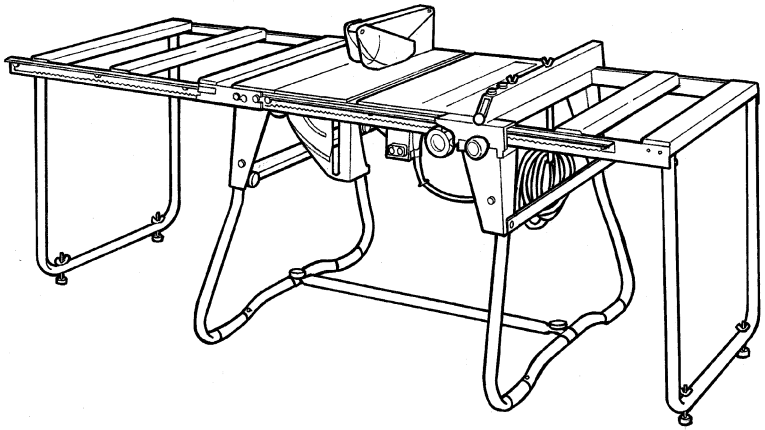
255㎜ C 10FD3

255㎜ C 10FD3(E)

（C10FD3の 3P ポッキン（可倒式さし込み）プラグ付）

取扱説明書

このたびは日立ベンチ丸のこをお買い上げいただき，ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり，正しく安全にお使いください。
お読みになったあとは，いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



HITACHI

目　次

ページ

電動工具の安全上のご注意 …… 2
ベンチ丸のこ使用上のご注意 …… 5
各部の名称 …… 7
仕　様 …… 8
付　属　品 …… 9
別売部品 …… 10
用　途 …… 11
組立方法 …… 12
作業前の準備 …… 24
ご使用前に …… 25
作業前の調整 …… 27
作業方法 …… 28
のこ刃の取付け・取りはずし …… 30
運搬・保管について …… 31
保守・点検 …… 32
ご修理のときは …… 33
全国営業拠点 …… 裏表紙

⚠警告、⚠注意、注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠ **警告**」、「⚠ **注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告　**：誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。**

⚠注意　**：誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。**

なお、「⚠ **注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

注　**：製品の据付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。**

電動工具の安全上のご注意

- **火災，感電，けがなどの事故を未然に防ぐために，次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。**
- **ご使用前に，この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上，指示に従って正しく使用してください。**
- **お読みになった後は，お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。**

⚠ 警　告

① 作業場は，いつもきれいに保ってください。
- ちらかった場所や作業台は，事故の原因になります。

② 作業場の周囲状況も考慮してください。
- 電動工具は，雨中で使用したり，湿った，または，ぬれた場所で使用しないでください。
- 作業場は十分に明るくしてください。
- 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

③ 感電に注意してください。
- 電動工具を使用中，身体を，アース（接地）されているものに接触させないようにしてください。
  （例えば，パイプ，暖房器具，電子レンジ，冷蔵庫などの外枠）

④ 子供を近づけないでください。
- 作業者以外，電動工具やコードに触れさせないでください。
- 作業者以外，作業場へ近づけないでください。

⑤ 使用しない場合は，きちんと保管してください。
- 乾燥した場所で，子供の手が届かない高い所または錠のかかる所に保管してください。

⑥ 無理して使用しないでください。
- 安全に能率よく作業するために，電動工具の能力に合った速さで作業してください。

⑦ 作業に合った電動工具を使用してください。
- 小形の電動工具やアタッチメントは，大形の電動工具でする作業には使用しないでください。
- 指定された用途以外に使用しないでください。

⑧ きちんとした服装で作業してください。
- だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は，回転部に巻き込まれるおそれがあるので，着用しないでください。
- 屋外で作業の場合には，ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
- 長い髪は，帽子やヘアカバーなどで覆ってください。

⚠ 警　告

⑨ 保護メガネを使用してください。

- 作業時は，保護メガネを使用してください。また，粉じんの多い作業では，防じんマスクを併用してください。

⑩ 防音保護具を着用してください。

- 騒音の大きい作業では，耳栓，イヤマフなどの防音保護具を着用してください。

⑪ コードを乱暴に扱わないでください。

- コードを持って電動工具を運んだり，コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
- コードを熱，油，角のとがった所に近づけないでください。

⑫ 加工する物をしっかりと固定してください。

- 加工する物を固定するために，クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で，両手で電動工具を使用できます。

⑬ 無理な姿勢で作業をしないでください。

- 常に足元をしっかりさせ，バランスを保つようにしてください。

⑭ 電動工具は，注意深く手入れをしてください。

- 安全に能率よく作業していただくために，刃物類は常に手入れをし，よく切れる状態を保ってください。
- 注油や付属品の交換は，取扱説明書に従ってください。
- コードは定期的に点検し，損傷している場合は，お買い上げの販売店，または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
- 継ぎ(延長)コードを使用する場合は，定期的に点検し，損傷している場合には交換してください。
- 握り部は，常に乾かしてきれいな状態を保ち，油やグリースが付かないようにしてください。

⑮ 次の場合は，電動工具のスイッチを切り，電源プラグを電源から抜いてください。

- 使用しない，または，修理する場合。
- 刃物，トイシ，ビットなどの付属品を交換する場合。
- その他，危険が予想される場合。

⑯ 調節キーやスパナなどは，必ず取りはずしてください。

- 電源を入れる前に，調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。

⑰ 不意な始動は避けてください。

- 電源につないだ状態で，スイッチに指を掛けて運ばないでください。
- 電源プラグを電源にさし込む前に，スイッチが切れていることを確かめてください。

⑱ 屋外使用に合った継ぎ(延長)コードを使用してください。

- 屋外で継ぎ(延長)コードを使用する場合，キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルを使用してください。

⚠ 警　告

⑲ 油断しないで十分注意して作業してください。

- 電動工具を使用する場合は，取扱方法，作業のしかた，周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせて下さい。
- 疲れているときは，使用しないでください。

⑳ 損傷した部品がないか点検してください。

- 使用前に，保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し，正常に作動するか，また，所定機能を発揮するか確認してください。
- 可動部分の位置調整および締付け状態，部品の破損，取付け状態，その他，運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 損傷した保護カバー，その他の部品交換や修理は，取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は，お買い上げの販売店，または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
- スイッチが故障した場合は，お買い上げの販売店，または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
- スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は，使用しないでください。

㉑ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。

- この取扱説明書および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものを使用すると，事故やけがの原因になるおそれがあるので，使用しないでください。

㉒ 電動工具の修理は，専門店に依頼してください。

- この製品は，該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は，必ずお買い上げの販売店，または日立工機電動工具センターにお申し付けください。
  修理の知識や技術のない方が修理すると，十分な性能を発揮しないだけでなく，事故やけがの原因になります。

ベンチ丸のこ使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが，ベンチ丸のことして，さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠ 警　告

① **本機は，銘板に表示してある電圧で使用してください。**
表示を超える電圧で使用すると，回転が異常に速くなり，けがの原因になります。
（詳細は，25ページの「1．使用電源を確かめる」の項を参照してください。）

② **必ずアース（接地）してください。**
故障や漏電などのとき，感電のおそれがあります。
（詳細は，24ページ「2．アース（接地），漏電しゃ断器の確認」の項をご参照ください。）

③ **使用中は，のこ刃や回転部および切りくずの排出部へ手や顔などを近づけないでください。**
けがの原因になります。

④ **接触予防装置（保護カバー）を必ず取付け，いつも円滑に動くことを確認してください。また，絶対に固定しないでください。**
接触予防装置（保護カバー）は手などが，のこ刃に触れるのを防ぐものであり，労働安全衛生規則により取付けを義務づけられています。必ず取付け，のこ刃を覆うよう円滑に動くことを確認してからお使いください。のこ刃が露出したままですと，けがの原因になります。

⑤ **のこ刃は，外径203～255㎜の範囲のものを使用してください。**
使用範囲からはずれたのこ刃を使用すると，接触予防装置（保護カバー）を切断したり，覆いが不完全となりけがの原因になります。

⑥ **使用中，機体の調子が悪かったり，異常音がしたときは，直ちにスイッチを切って使用を中止し，お買い上げの販売店，または日立工機電動工具センターに点検・修理を依頼してください。**
そのまま使用していると，けがの原因になります。

⚠ 注　意

① **刃物（のこ刃など）や付属品は，取扱説明書に従って確実に取付けてください。**
確実でないと，はずれたりし，けがの原因になります。

② **本機使用中には，手袋の着用はさけてください。**
手袋をして作業しますと，回転物に巻き込まれるおそれがあります。

③ **木材に釘などの異物がないことを確認してください。**
刃こぼれだけでなく，反発により思わぬけがの原因になります。

④ **作業台がわりにテーブルの上に乗らないでください。**
製品の損傷をまねくばかりでなく，思わぬ事故の原因になります。

各部の名称

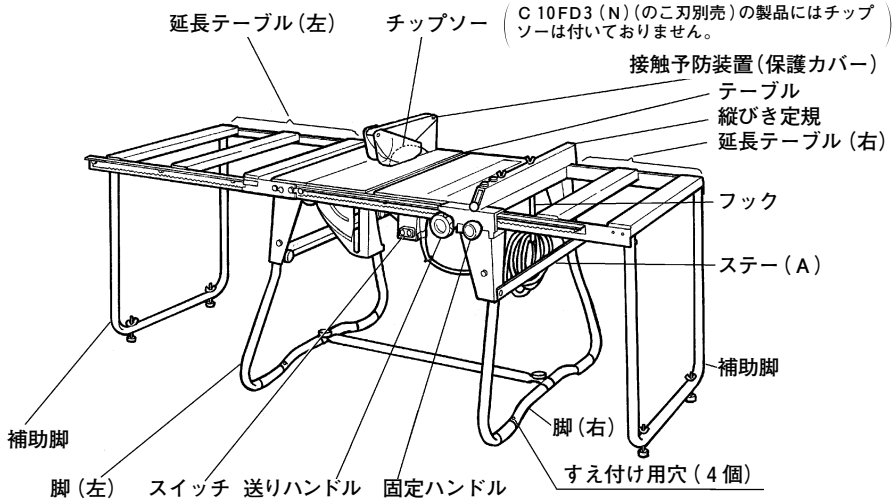


図　1

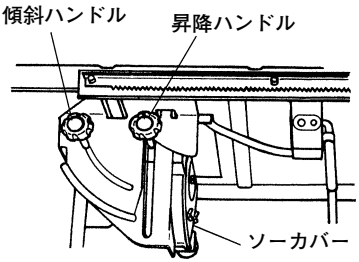


図　2

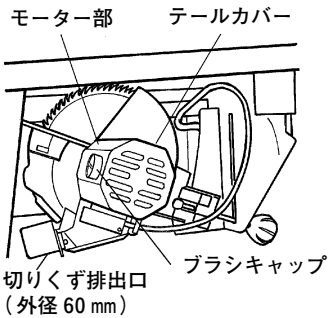
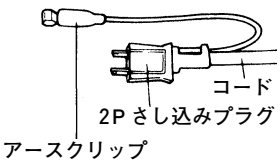
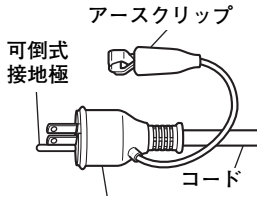


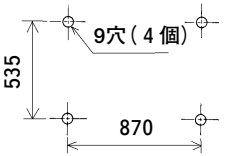
図　3



C10FD3，C10FD3(N)



C10FD3(E)



すえ付け寸法(単位mm)

仕　　様

項　　目	C 10FD3（チップソー付） C 10FD3（E）〔3 Pポッキン（可倒式さし込み）プラグ付〕 C 10FD3（N）（のこ刃別売）		
使 用 電 源	単相交流 50 ／ 60 Hz　共用		
	電圧 100 V		
切 込 み 深 さ	使用のこ刃	90°のとき	45°傾斜のとき
	外径 255 mm	0 ～ 92 mm	11 ～ 60 mm
	外径 203 mm	0 ～ 66 mm	0 ～ 41 mm
使 用 丸 の こ	外　　径　203 ～ 255 mm		
	のこ身の厚さ　1.8 mm以下		
	あ さ り 幅　2 mm以上		
	穴　　径　25.4mm		
縦びき定規の	右　　側　0 ～ 950 mm		
使 用 範 囲	左　　側　300 ～ 950 mm		
モ ー タ ー	保護形単相直巻整流子モーター		
全 負 荷 電 流	14 A		
無負荷回転数	3500 min^{-1} {3500 回／分}		
質　　量	43 kg（延長テーブル（左）と付属品を除く）		
コ ー ド	アースクリップ付３心キャブタイヤケーブル５m		

付　属　品

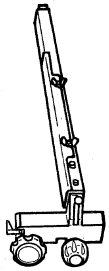
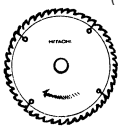
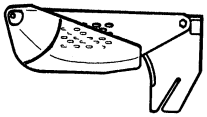
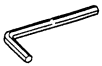
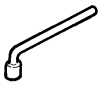
<table>
<tr>
<td rowspan="3">①縦びき定規（当て板付き）
（１組）
 
使い方は19ページ参照</td>
<td>② 255 mmチップソー
（１枚）
 
（刃数72　コード番号303344）</td>
<td>⑤接触予防装置
（保護カバー）（１組）
  </td>
</tr>
<tr>
<td>③ 8 mm六角棒スパナ
（１個）
 </td>
<td>⑥ 23 mm片口スパナ
（１個）
 </td>
</tr>
<tr>
<td>④ 5 mm六角棒スパナ
（１個）
  </td>
<td>⑦17 mmボックススパナ
（１個）
  </td>
</tr>
</table>

図　4

注 • **Ｃ10ＦＤ3（Ｎ）（のこ刃別売）の製品には② 255 mmチップソーは付いておりません。別途お求めください。**

別売部品 ……（別売部品は生産を打ち切る場合があります。）

①マイターゲージ（図５－イ）（コード番号 991231）
縦びき定規で作業しにくい長尺材の切断や角度切断（図５－ロ）にご使用になると便利です。

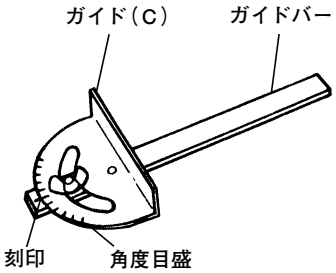


図５－イ

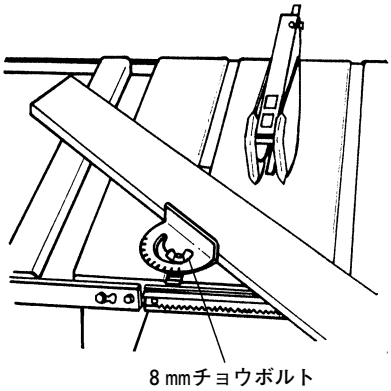


図５－ロ

角度切断をするときは，切断したい角度に，ガイドバーの刻印とガイド（C）の角度目盛を合わせ，８mmチョウボルトで固定して使用します。

②リヤテーブルセット（図５－ハ）（コード番号 991238）
長尺材や幅広材の切断にご使用になると便利です。

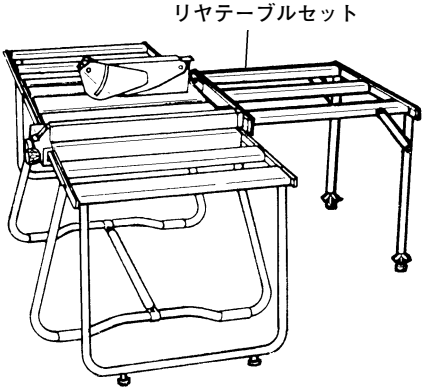
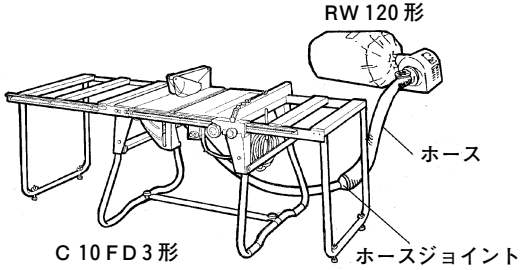


図５－ハ

③木工用集じん機RW 120 形　接続用別売部品



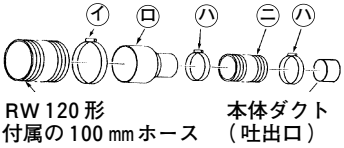


図　6－イ

木工用集じん機RW 120 形接続時にご使用ください。

ホースセット(A) (㋑～㋩含む)
（コード番号 307122 ）

㋑ ホースバンド 呼び径 100 mm
（コード番号 306049 ）

㋺ ホースジョイント
（コード番号 305449 ）

㋩ ホースバンド 呼び径 65 mm
（コード番号 312812 ）

㋥ ホース　　呼び径 65 mm
（コード番号 305451 ）

④電動工具用集じん機RP 30 SA形　接続用別売部品

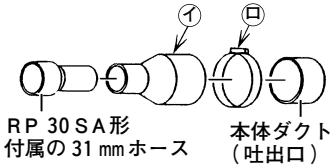


図　6－ロ

電動工具用集じん機RP 30 SA形接続時にご使用ください。

㋑ アダプタ　　呼び径 60 mm
（コード番号 308506 ）

㋺ ホースバンド 呼び径 65 mm
（コード番号 312812 ）

⑤ダストバック（図 7）（コード番号 314867 ）

図　7

用　　途

○コンクリートパネル製作用各種合板の切断
○各種木材の切断，ひき割り

組立方法

1．部品を取り出す……

段ボール箱から部品を取り出し，図８，図９のようにそろっていることを確認してください。

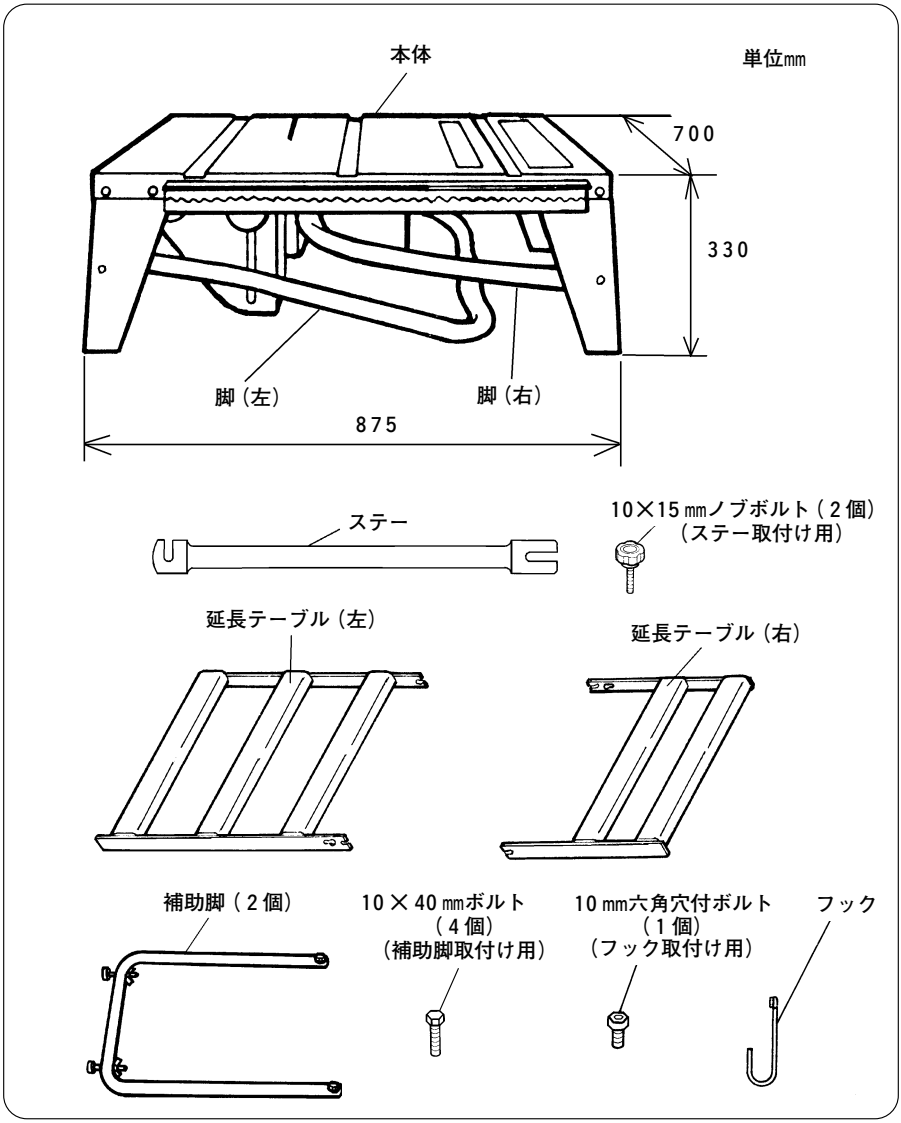


図　8

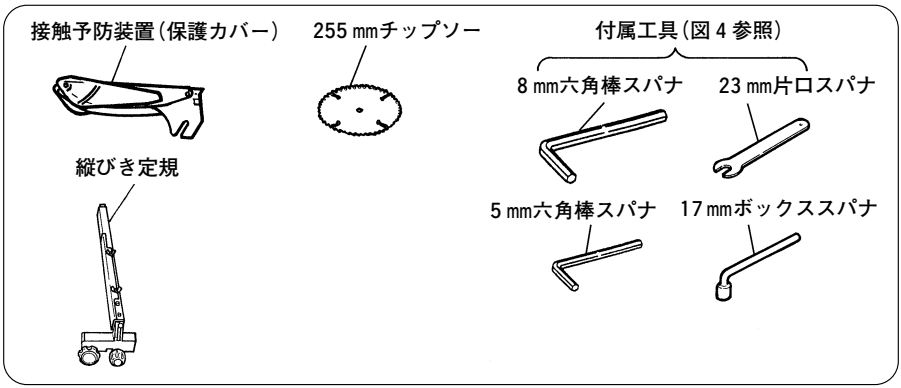


図　9

2．本体の脚を開く……

本機は，次の順序で組立ててください。なお，本機に使用しているボルトは，すべて右ネジです。

⚠ 警　告

• 脚の固定(図 12 参照)，およびステー(図 14 参照)は，10 × 70 mm，10 × 15 mm ノブボルトで確実に締付けてください。締付けが不十分ですと，本体がぐらつき転倒するおそれがあり，けがの原因となります。

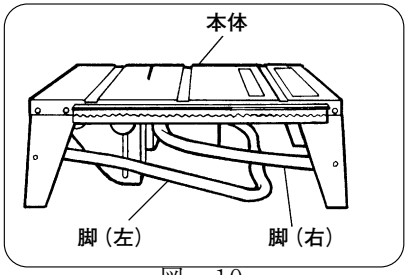


図　10

(1) 工場出荷時には脚(左)，(右)を図 10 のように折りたたんであります。

本体を傾斜のない平たんな場所へ置きます。

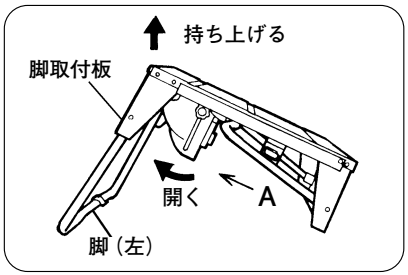


図　11

(2) 図 11 のように本体の片側を持ち上げた状態で，脚(左)を脚取付板に突当るまで開きます。

開いた後，脚(左)が地面に接するよう静かに本体をおろします。

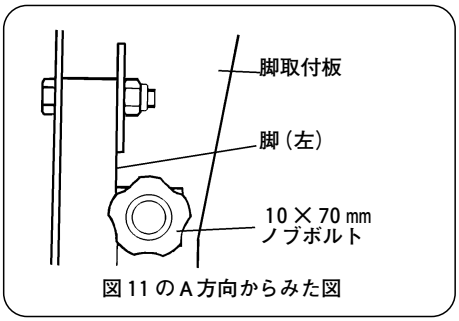


図　12

(3) 開いた脚(図11参照)は10×70㎜ノブボルト(2個)で脚取付板に締付けて固定します。10×70㎜ノブボルトは工場出荷時，脚(左)および脚(右)それぞれに2個取付けてあります。

注 **• 10×70㎜ノブボルト(2個)は脚が動かないよう十分に締付けてください。**

⚠ 警　告

• 脚(右)を開く場合は反対側の脚(左)を10×70㎜ノブボルト(2個)で脚取付板に必ず固定(図12参照)しておいてください。固定しないと開いた脚(左)が閉じて，本体が転倒しケガの原因となります。

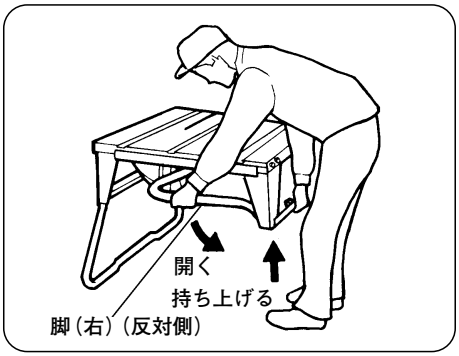


図　13

(4) 図13のように本体を持ち上げ，脚(右)を脚取付板に突当るまで開き(図14参照)ます。開いた後，脚(右)が地面に接するよう静かに本体をおろします。

開いた脚(右)は(3)項と同じ要領で脚取付板に10×70㎜ノブボルト(図12，図14参照)で固定します。

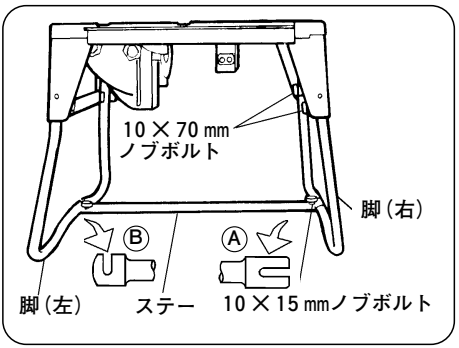


図　14

(5) 最初に10×15㎜ノブボルト(2個)を脚(左),(右)に仮締めします。

ステーは先にⒶ,つぎにⒷの順で仮締めした10×15㎜ノブボルトへさし込みます。(図14)

最後に10×15㎜ノブボルト(2個)を十分に締付けて，ステーを固定します。

3．延長テーブル（左）を取付ける……

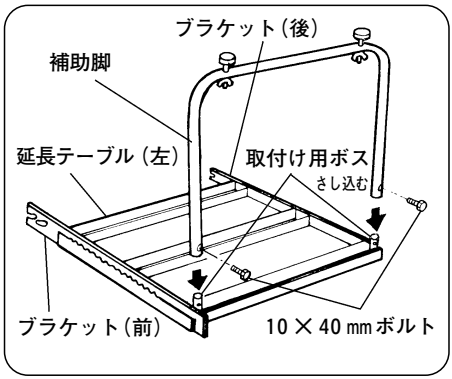


図　15

(1) 図15のように延長テーブル(左)のテーブル面を下にして置きます。
補助脚を延長テーブル(左)の取付けボスへさし込み，10×40㎜ボルトで取付けます。
10×40㎜ボルトは付属(図4参照)の17㎜ボックススパナで十分に締付けてください。

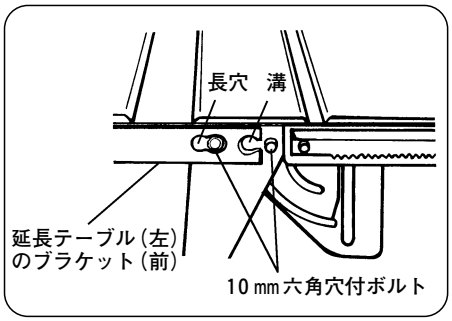


図　16

(2) 延長テーブル(左)固定用の10㎜六角穴付ボルト(前側2個，後側1個)は工場出荷時，本体のテーブル側面に締付けてあります。(図16，17参照)
この10㎜六角穴付ボルト(3個)を付属(図4参照)の8㎜六角棒スパナで5～6回まわす程度にゆるめておきます。
次に，延長テーブル(左)のブラケット(前)の長穴へ10㎜六角穴付ボルトの頭を入れます。

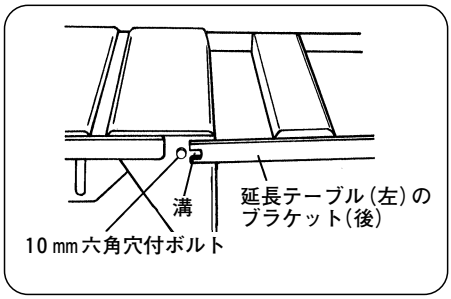


図　17

(3) 延長テーブル(左)のブラケット(後)の溝を10㎜六角穴付ボルトに合わせます。

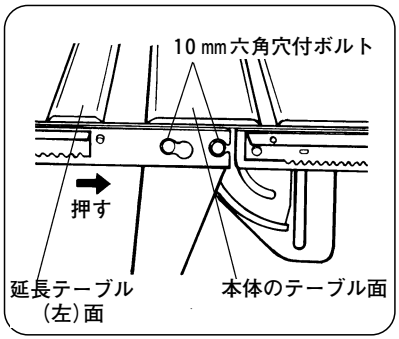


図　18

(4) 延長テーブル(左)を図18の矢印方向に突当たるまで押し付け，10 mm六角穴付ボルト(図17，18参照)3個を付属(図4参照)の8mm六角棒スパナで軽く締付けます。

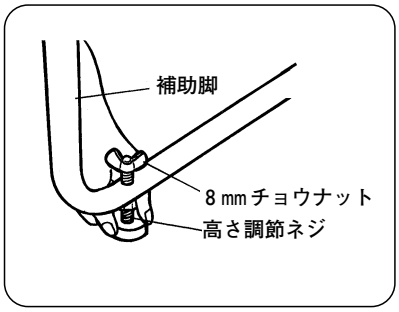


図　19

(5) 図19のように補助脚についている高さ調節ネジ(2個)をまわして，本体のテーブル面と延長テーブル面が同一面になるように，また補助脚がぐらつかないように調整します。
お手持ちの真っ直な定規(長さ1m程度)を本体のテーブル面と延長テーブル面に当て調整してください。
調整後，高さ調節ネジがゆるまないように8 mmチョウナット(2個)を十分に締付けます。

(6) 最後に10 mm六角穴付ボルト(図17，18参照)3個を付属(図4参照)の8 mm六角棒スパナで十分に締付け，延長テーブルを本体のテーブルに固定します。

4．延長テーブル(右)を取付ける……

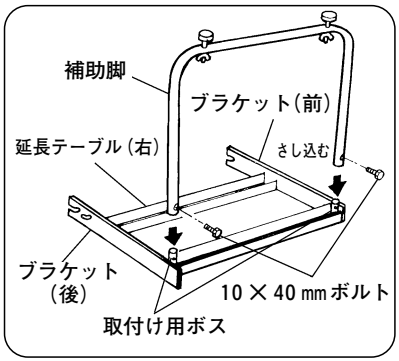


図　20

(1) 図20のように延長テーブル(右)のテーブル面を下にして置きます。
補助脚を延長テーブル(右)の取付けボスへさし込み，10 × 40 mmボルトで取付けます。
10 × 40 mmボルトは付属(図4参照)の17 mmボックススパナで十分に締付けてください。

(2) 延長テーブル(右)は15ページ「3．延長テーブル(左)を取付ける…」の項と同じ要領で本体のテーブルに取付けてください。

5．のこ刃を取付ける……

⚠ 警　告

• 万一の事故を防止するため，必ずスイッチを切り，電源プラグを電源から抜いておいてください。

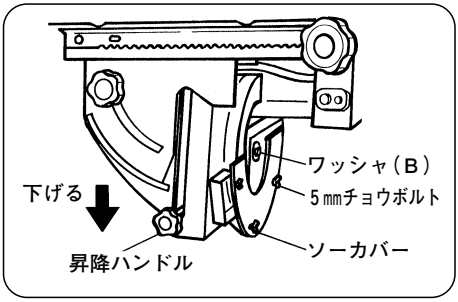


図　21

(1) 昇降ハンドルを左にまわしてゆるめ，下にいっぱい下げてから，右にまわして固定します。次に，5㎜チョウボルト（3個）をゆるめ，ソーカバーをはずします。

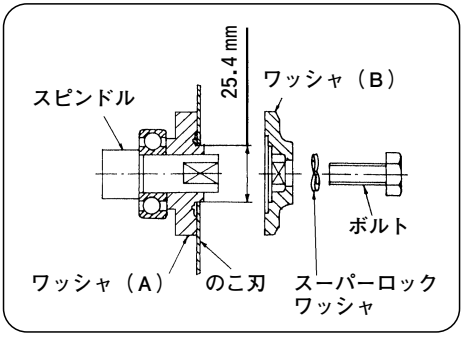


図　22

(2) 付属（図4参照）の23㎜片口スパナでワッシャ(B)のまわり止め(図24参照)をして，付属(図4参照)の17㎜ボックススパナでボルトをゆるめ，ワッシャ(B)をはずします。

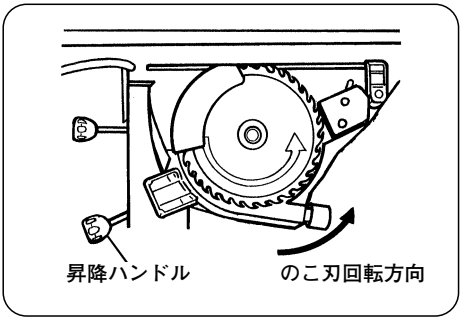


図　23

(3) のこ刃の矢印を図23ののこ刃回転方向に合わせ，のこ刃・ワッシャ（B）・スーパーロックワッシャ・ボルトの順に取付けます。

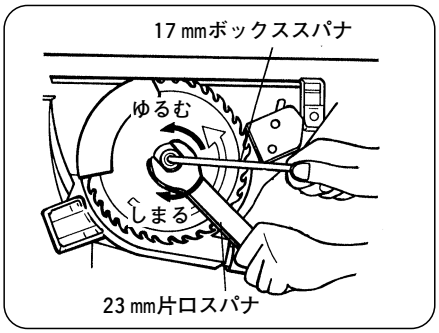


図　24

(4) 付属(図4参照)の23 mm片口スパナでワッシャ(B)のまわり止めをして，ボルトを十分に締付けてください。

(5) ソーカバーを取付け，5 mmチョウボルト(3個)を締付けます。

6．接触予防装置(保護カバー)を取付ける……

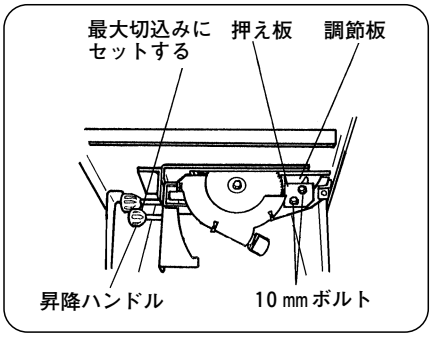


図　25

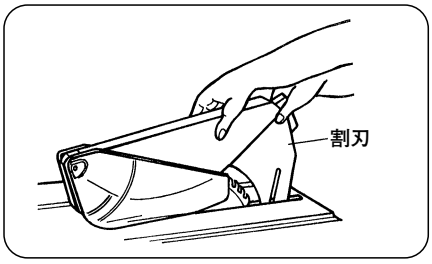


図　26

(1) 昇降ハンドル(図21参照)を左にまわしてゆるめ，上にいっぱい上げて(最大切込みにセット)から，右にまわして固定します。本体後部の押え板を固定している10 mmボルト(2個)を付属(図4参照)の17 mmボックススパナでゆるめます。

(2) 接触予防装置(保護カバー)の割刃を，調節板と本体の間へさし込みます。このとき，割刃の長溝が10 mmボルトのネジ部に入るようにさし込んでください。次に，10 mmボルト（2個)を軽く締付けて，のこ刃と割刃が一直線になっているか確認します。もし，ずれているときは割刃をいったん抜き，一直線になるように調節板2枚を使用し，左右に振分けて本体と割刃または割刃と押え板との間へさし込んで調整します。

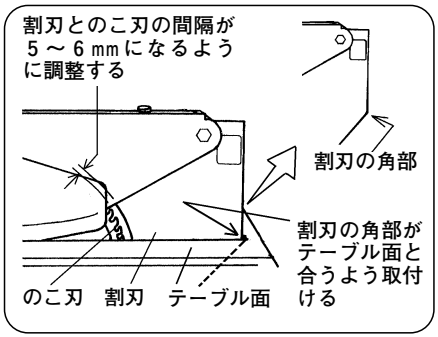


図　27

(3) 割刃とのこ刃の間隔が5～6 mmになるように調整してから，10 mmボルト(2個)を十分に締付けてください。また外径255 mmののこ刃の場合は，割刃の角部がテーブル面に合うように下げて取付けます。

注
- **この割刃は厚さが2 mmです。あさり幅が2 mmより小さいのこ刃，またはのこ身の厚さが1.8 mmを超えるのこ刃は使用できません。**
- **割刃を調整しても，のこ刃との間隔が12 mm以上になるようなのこ刃(外径が203～255 mmの範囲に入らないもの)は使用できません。**
- **切断トイシは使用できません。**

7．縦びき定規を取付ける……

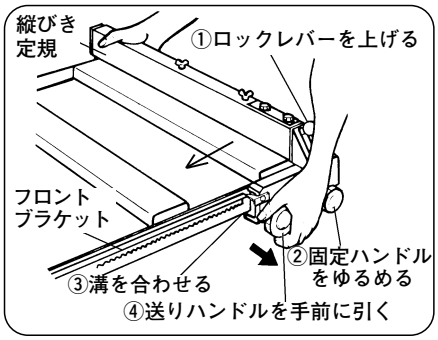


図　28

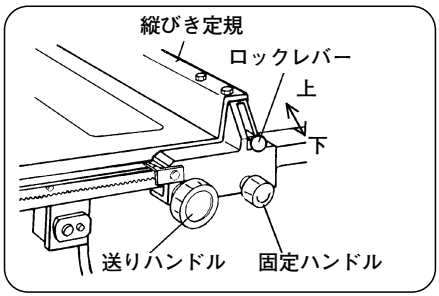


図　29

(1) ①ロックレバー(図29参照)を上に上げておきます。
②固定ハンドル(図29参照)を左にまわしてゆるめておきます。
③フロントブラケットに縦びき定規の溝を合わせます。
④送りハンドル(図29参照)を手前に引きながら矢印方向にさし込みます。

(2) 縦びき定規は，送りハンドルを右にまわすと左に動き，左にまわすと右に動きます。
縦びき定規は，固定ハンドルを右にまわして締付けてから，ロックレバーを下に倒すと固定できます。

8．各部の調整……

⚠ 警　告

- **万一の事故を防止するため，必ずスイッチを切り，電源プラグを電源から抜いておいてください。**

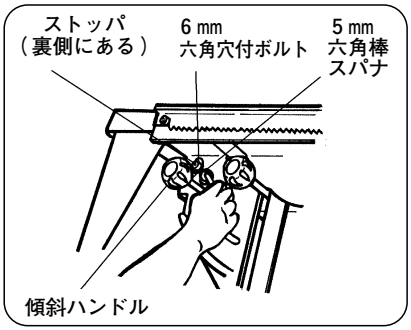


図　30

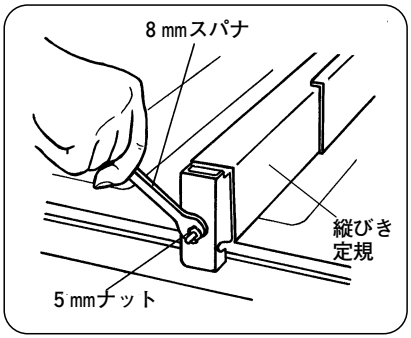


図　31

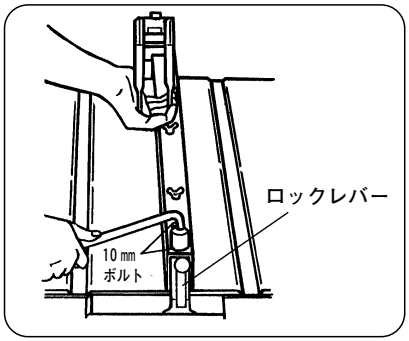


図　32

下記の項目について確かめてください。もしずれているときには，調整してください。

(1) のこ刃の直角のストッパ位置調整

ストッパに突当たる位置で傾斜ハンドルを固定します。

（傾斜させる方法は，27 ページ「2．傾斜角度の調整」の項をご参照ください。）

次に，お手持ちの曲尺などで，のこ刃の直角を確かめます。

調整するときは

①付属（図 4 参照）の 5 mm 六角棒スパナで，ストッパを固定している 6 mm 六角穴付ボルトをゆるめます。

②ストッパを動かしてストッパ位置を調整します。

③ 6 mm 六角穴付ボルトを十分に締付けます。

(2) 縦びき定規とのこ刃の平行調整

縦びき定規を動かして，のこ刃と密着させ，平行を確かめてください。

平行の調整をするときは，

①ロックレバーを上に上げます。

②固定ハンドル（図 29 参照）を締付けます。

③縦びき定規後側の 5 mm ナットを手持ちの 8 mm スパナで 4 ～ 5 回転，左にまわします。

④縦びき定規の 10 mm ボルト（2 個）を，付属（図 4 参照）の 17 mm ボックススパナでゆるめます。

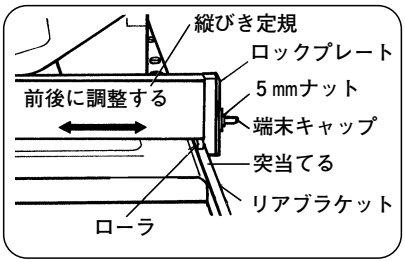


図　33

⑤縦びき定規をのこ刃に密着させ，のこ刃と平行にします。

⑥図33のように，ローラがテーブルに接触しないように，縦びき定規を前後に動かして，ローラがテーブルにさわらず，正しくリヤブラケットの上に乗るようにします。

⑦10㎜ボルト（2個）を付属（図4参照）の17㎜ボックススパナで締付けます。

⑧「(3)縦びき定規の固定力」を調整してください。

(3) 縦びき定規の固定力調整

縦びき定規と，のこ刃の平行を調整するため，5㎜ナット(図33参照)をゆるめたとき，またロックレバーを下に倒しても後側の固定部が動きやすいときは，5㎜ナットの締付けを調整して，縦びき定規が確実に固定できるようにしてください。

固定力は次により調整してください。

①固定ハンドルを締付けます。

②ロックレバーを下に倒します。

③ロックプレートがリアブラケットから離れるまで，5㎜ナットを手持ちの8㎜スパナで左にまわします。（図31参照）

④5㎜ナット(図33参照)を右にまわして，ロックプレートをリアブラケットに突当てます。

⑤突当ててから，さらに1～2回転右にまわして，固定力を確認します。

⑥端末キャップを押し込みます。（図33）

(4) 縦びき定規のインジケータ位置調整

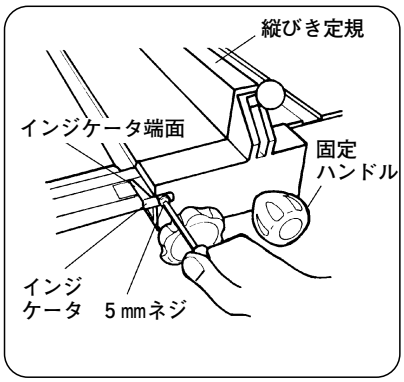


図　34

縦びき定規を動かして，のこ刃と密着させます。縦びき定規のインジケータ端面が本体スケールの目盛0を示していることを確かめます。

調整するときは

①固定ハンドルを締付けます。

②インジケータを取付けている5㎜ネジを手持ちの　ドライバーでゆるめます。

③インジケータを左右に動かして目盛0にインジケータ端面を合わせます。

④最後に5㎜ネジを締付けてインジケータを固定します。

(5) 延長テーブル(右)側目盛の位置調整

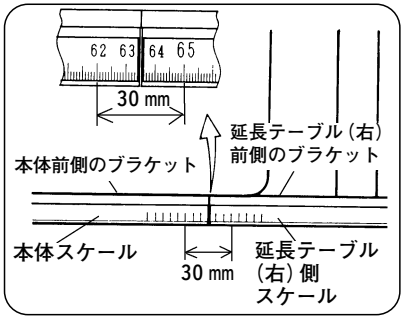


図　35

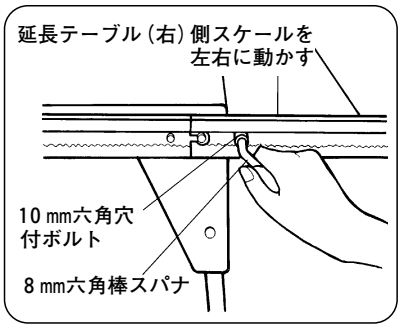


図　36

本体および延長テーブル(右)側スケールとの目盛間隔(目盛62と65との間隔)が，図35のように30 mmになっていることをお手持ちの曲尺で計って確かめます。

30 mmになってなく調整が必要なときは，次の手順で調整し，30 mmに合わせてください。

①延長テーブル(右)側スケールを固定している10 mm六角穴付ボルト(2個)を付属(図4参照)の8 mm六角棒スパナでゆるめます。

②延長テーブル(右)側スケールを左右に動かして本体スケールとの目盛間隔を30 mm(図35参照)にします。このとき，お手持ちの曲尺で計りながら調整してください。

③最後に10 mm六角穴付ボルト(2個)を締付けて延長テーブル(右)側スケールを固定します。

(6) 延長テーブル(左)側目盛の位置調整

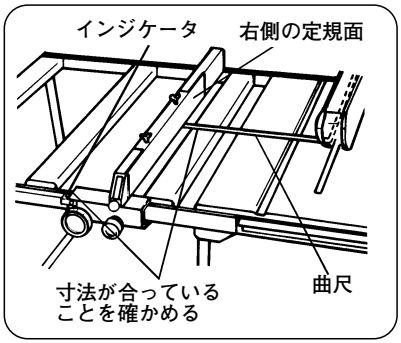


図　37

縦びき定規を延長テーブル(左)側へ取付けます。(図46参照)

のこ刃に，お手持ちの曲尺を当てます。

右側の定規面が示す曲尺の寸法と，縦びき定規のインジケータ端面(図34参照)が示す目盛の寸法が合っていることを確かめます。(図34)

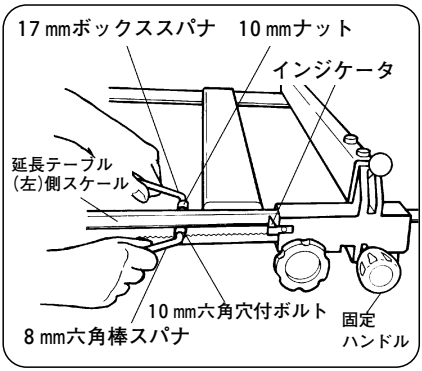


図　38

調整するときは
①固定ハンドルを締付けます。
②付属(図4参照)の17 mmボックススパナで10 mmナット(3個)のまわり止めをして，延長テーブル側スケールを取付けている10 mm六角穴付ボルト(3個)を付属(図4参照)の8 mm六角棒スパナでゆるめます。
③延長テーブル(左)側スケールを左右に動かして曲尺の寸法とインジケータ端面が示す位置の目盛と合うようにします。
④最後に10 mm六角穴付ボルト(3個)を締付けます。(図38)

9．フックを取付ける……

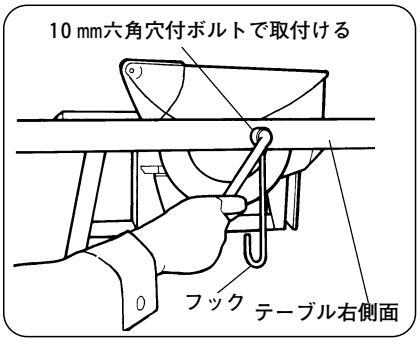


図　39

フックをテーブル右側面に，10 mm六角穴付ボルトで取付けます。(図39)

運搬するときや作業を終えたとき，コードをフックにかけておくと便利です。

10．付属工具を収納する……

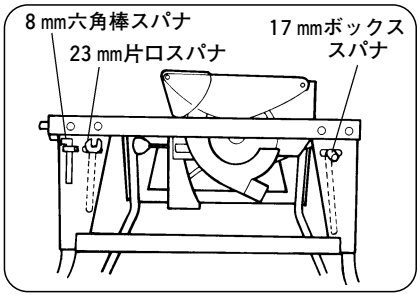


図　40

付属(図4参照)の8 mm六角棒スパナ，23 mm片口スパナ，17 mmボックススパナを本体側面の穴へそれぞれさし込んでください。(図40)

作業前の準備

作業前に次の準備をすませてください。

1．すえ付け……

傾斜のない平たんな場所へ，安定した状態にすえ付けてください。本体はM8またはW5／16のアンカーボルト(4個)で倒れないよう固定してください。すえ付け寸法は，7ページ図1をご参照ください。

2．アース(接地)，漏電しゃ断器の確認……

⚠ 警　告

• アース(接地)線をガス管に取付けると爆発のおそれがありますので，絶対にしないでください。

ご使用にさきだち，本機が接続される電源に労働安全衛生規則や電気設備の技術基準などに規定された感電防止用漏電しゃ断装置(以下，漏電しゃ断器と言います)が設置されているか確認してください。

また，本機は必ずアース(接地)してください。定格感度電流15mA以下，動作時間0.1秒以下の電流動作型の漏電しゃ断器の設置されている電源でお使いになる場合でも，より安全のためにアース(接地)されるようおすすめします。

○ アースクリップ付2Pさし込みプラグをご使用の場合

アースをするときは，図 41-イのアースクリップをお使いになると便利です。

○ アースクリップ付3Pポッキン(可倒式さし込み)プラグをご使用の場合

アースは，接地極のあるコンセントに3Pプラグ(接地極付プラグ)をさし込んで行ないます。接地極のないコンセントに接続するときは，図 41-ロのように接地極を折り曲げてコンセントにさし込み，アースクリップをお使いになると便利です。

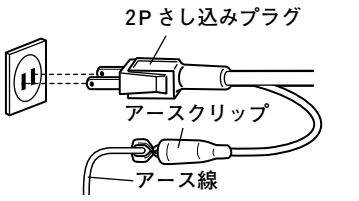


図 41-イ

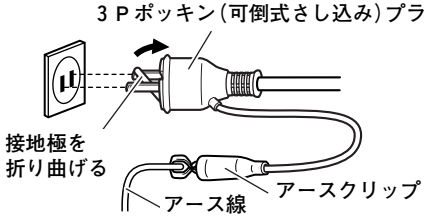


図 41-ロ

プラグのアースクリップや接地極，アース線は，念のために異常のないことを確認してからご使用ください。テスターや絶縁抵抗計などをお持ちでしたら，プラグの接地極またはアースクリップと本機金属外枠との間の導通を確認してください。

地中にアース極(アース板，アース棒)を埋め，アース(接地)線を接続するなどのアース工事は，電気工事士の資格が必要ですので，お近くの電気工事店にご相談ください。漏電しゃ断器やアース(接地)については，次の法規がありますので，参照してください。

労働安全衛生規則（第333条 漏電による感電の防止，第334条 適用除外）
電気設備の技術基準（第19条 接地工事の種類，第29条 機械器具の鉄台および外箱の接地，第40条 地絡しゃ断装置等の施設）

3．継ぎ(延長)コード……

⚠ 警　告

• 継ぎ(延長)コードは，損傷のないものを使用してください。

電源の位置がはなれていて継ぎ(延長)コードが必要なときは，製品を最高の能率で故障なくご使用いただくため，電流を流すのに十分な太さのものをできるだけ短くしてご使用ください。

次の表は，コードの太さ(心線断面積)によって，本機に使用できるコードの最大長さを示します。

心線断面積	最大長さ
1.25 mm²	10 m
2 mm²	15 m
3.5 mm²	30 m

これ以上長いコードを使用すると，電流が十分流れず製品の能率が落ち，故障の原因となります。

継ぎ(延長)コードは必ずアース(接地)できるアース(接地)用の1心をもつ3心キャブタイヤケーブルをお使いください。

4．作業環境の整備・確認……

作業する場所が，2ページ「電動工具の安全上のご注意」の注意事項にかかげられている適切な状態になっているかどうか確認してください。

○騒音防止規制について

騒音に関しては，法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。
ご近所に迷惑をかけないよう，規制値以下でご使用になることが必要です。
状況に応じ，しゃ音壁を設けて作業してください。

ご使用前に

⚠ 警　告

• ご使用前に次のことを確認してください。1～5項については，電源プラグを電源にさし込む前に確認してください。

1．使用電源を確かめる……

必ず銘板に表示してある電圧でご使用ください。表示を超える電圧で使用すると，モーターの回転数が異常に速くなり，のこ刃や機体が破損するおそれがあります。また，直流電源，エンジン発電機および昇圧器などのトランス類で使用しないでください。製品が故障するだけでなく，事故の原因になります。

2．スイッチが切れていることを確かめる……

⚠ 警　告
• **スイッチが入っているのを知らずに，電源プラグを電源にさし込むと不意に起動し，思わぬ事故の原因になります。**

スイッチは**「切」**のボタンを押すとスイッチが切れ，**「入」**のボタンを押すとスイッチが入ります。

スイッチの**「切」**ボタンが押されていることを必ず確認してください。

3．のこ刃の締付けを確かめる……

付属（図4参照）の23㎜片口スパナと17㎜ボックススパナを使用し，のこ刃の締付けを確かめてください。詳しくは17ページの「5．のこ刃を取付ける」の項をご参照ください。

4．接触予防装置（保護カバー）を確認する……

接触予防装置（保護カバー）（図1参照）は手などがのこ刃に触れるのを防ぐものです。

必ずのこ刃を，覆うよう円滑に動くことを確認してください。

万一接触予防装置（保護カバー）が円滑に動かない場合は，決してそのままお使いにならないでください。この場合，すみやかにお買い上げの販売店または日立工機電動工具センターなどにお問い合わせください。

5．ブレーキを確認する……

ブレーキが正常にかかることを確認してください。スイッチを**「入」**にして回転させた後，**「切」**にすると同時にブレーキがかかる構造になっています。

通常は3～5秒で回転が停止しますが，万一10秒以上かかる場合は，決してそのままでお使いにならないでください。

この場合，すみやかにお買い上げの販売店または日立工機電動工具センターなどにお問い合わせください。

6．電源コンセントの点検……

電源プラグをさし込んだとき，ガタガタだったり，すぐ抜けるようでしたら修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。

そのままお使いになりますと，過熱して事故の原因になります。

作業前の調整

⚠ 警　告

• 万一の事故を防止するため，必ずスイッチを切り，電源プラグを電源から抜いておいてください。

1．切込み深さの調整……

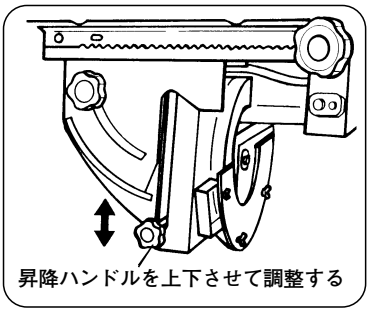


図 42 －イ

昇降ハンドルをゆるめた状態で上下させて，木材の厚さよりやや大きめの切込み深さになるように調整します。調整後は，昇降ハンドルを十分締付けて固定します。

図42－イは直角の場合を示します。

図42－ロは傾斜の場合を示します。

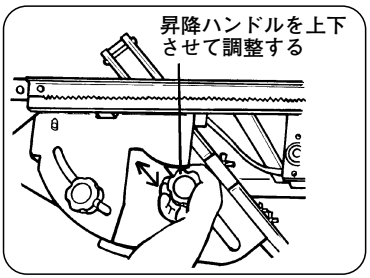


図 42 －ロ

2．傾斜角度の調整……

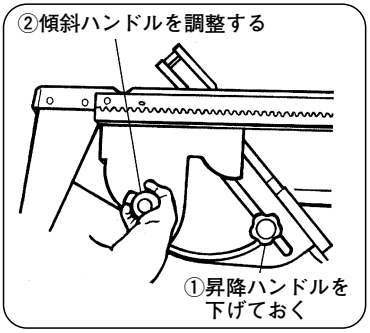


図　43

まず昇降ハンドルをゆるめて下に下げ，締付け固定します。次に傾斜ハンドルをゆるめて，傾斜角度をお望みの角度に調整します。調整後は傾斜ハンドルを十分締付けて固定します。

注 **• 最大切込みの状態からそのまますぐ傾斜させることは，できません。必ず切込みを下げてから，傾斜させてください。**

作業方法

⚠ 警　告

- **接触予防装置(保護カバー)のいちばん手前には，赤いプレートを貼り付けてあります。切断中，木材に終わりまで手を添えなければならないときには，あらかじめ用意した押し棒で押すようにし，絶対に手をプレートより中に入れないでください。(図 48 参照)**
- **切断中に木材をこじったり，強く押しすぎるとモーターに無理がかかるばかりでなく，反ぱつ力を受けけがの原因になります。まっすぐに，ゆっくり押し進めるようにしてください。**
- **作業が終りましたら，必ずスイッチを切り，電源プラグを電源から抜いてください。**

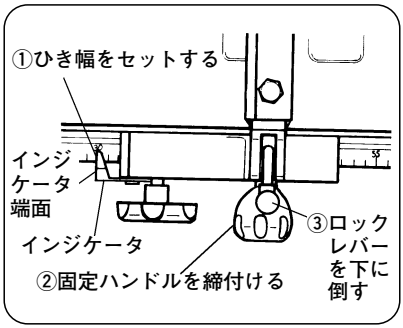


図　44

(1) ひき幅を調整します。
①縦びき定規を動かして，お望みのひき幅をセットします。インジケータ端面の示す目盛がひき幅です。
②固定ハンドルを右にまわして締付けます。
③ロックレバーを下に倒して固定します。

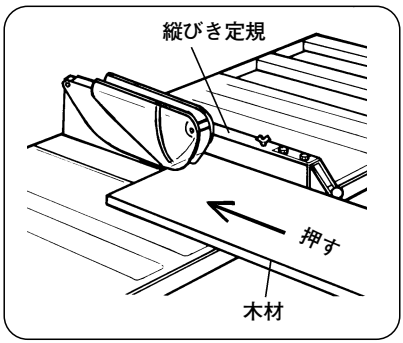


図　45

(2) 木材がのこ刃に触れない状態でスイッチを入れます。木材を縦びき定規にそって，ゆっくり押して切断してください。

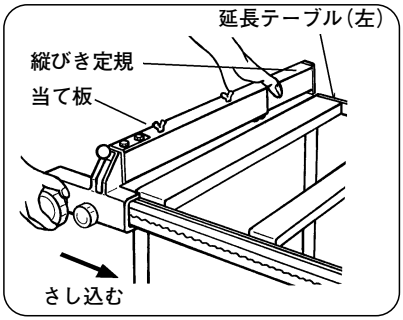


図　46

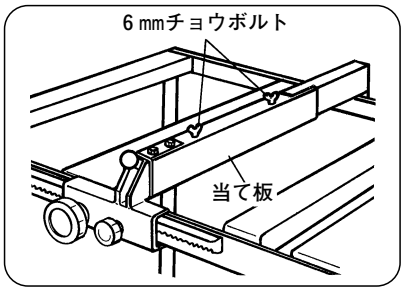


図　47

(3) 縦びき定規を延長テーブル(左)側へ取付けることもできます。縦びき定規を本体の右端へ動かして取りはずしてから，延長テーブル(左)の左端よりさし込みます。(図46)

(4) 縦びき定規より長手方向に短かい当て板(図46参照)が付いています。当て板を付けてご使用になると，切断途中，のこ刃と縦びき定規に木材がはさまれて反発するのを防止します。

当て板は，6 mmチョウボルト(2個)をゆるめるとはずすことができ，縦びき定規の左右どちら側にでも，取付けることができます。(図47)

注
- **当て板をはずした場合は，ひき幅が2 mm広くなります。ご注意ください。**
- **3 mm以下の薄板を切断すると，当て板の下側にもぐり込みます。この場合，補助板をご使用ください。(図49)**
  補助板は，縦びき定規側面の6.5 mm穴(2個)使用して，補助板の下面とテーブル上面との間にすきまができないように取付けてください。縦びき定規の幅は35 mmです。補助板の厚さにより取付け用6 mmボルトの長さを決めてください。

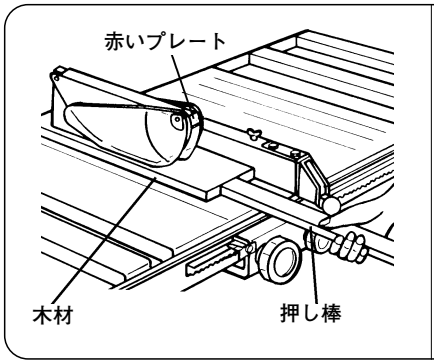


図　48

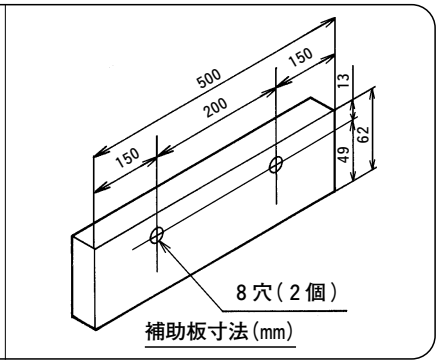


図　49

のこ刃の取付け・取りはずし

⚠ 警　告

• 万一の事故を防止するため，必ずスイッチを切り，電源プラグを電源から抜いておいてください。

1．取りはずし方……

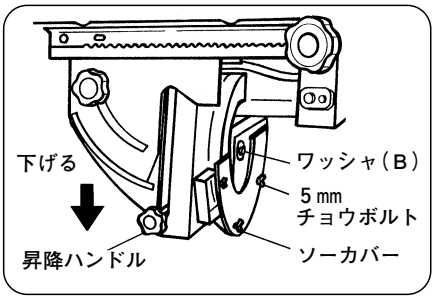


図　50

(1) 昇降ハンドルを左にまわしてゆるめ，下にいっぱい下げてから，右にまわして固定します。

　次に，5㎜チョウボルト（3個）をゆるめ，ソーカバーをはずします。（図50）

(2) 図51のように，ボルトをゆるめ，スーパーロックワッシャ・ワッシャ（B）をはずした後，のこ刃を取りはずします。

2．取付け方……

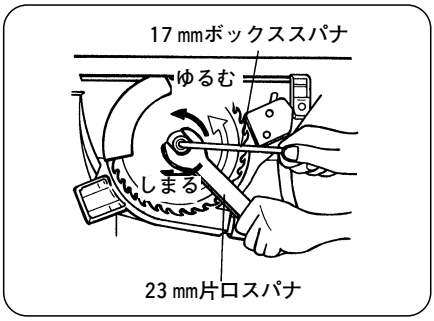


図　51

スピンドルやワッシャに付いている切りくずをよく拭き取ってから，のこ刃を取付けてください。

取付け方は，17ページの「5．のこ刃を取付ける」の項をご参照ください。

運搬・保管について

⚠ 警　告

• 運搬の際は，脚取付板の側面を持たないでください。
脚と脚取付板の間に指がはさまるおそれがあり，けがの原因になります。
テーブル両端のステー（A）を持って運搬してください。（図 52 参照）

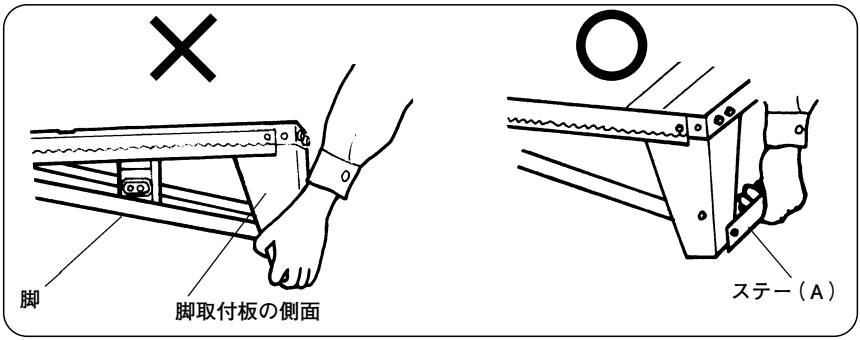


図　52

運搬・保管の時は，本体から延長テーブル(左)，延長テーブル(右)を取りはずし，本体の脚を閉じると小形になり便利です。

(1) 延長テーブル(左)は 15 ページ「3．延長テーブル(左)を取付ける…」の項と逆の要領で取りはずしてください。

(2) 延長テーブル(右)は 16 ページ「4．延長テーブル(右)を取付ける…」の項と逆の要領で取りはずしてください。

(3) 本体の脚は 13 ページ「2．本体の脚を開く…」の項と逆の要領で閉じてください。

(4) 本機はテーブル両端のステー(A)(図 1 参照)を持って運搬してください。

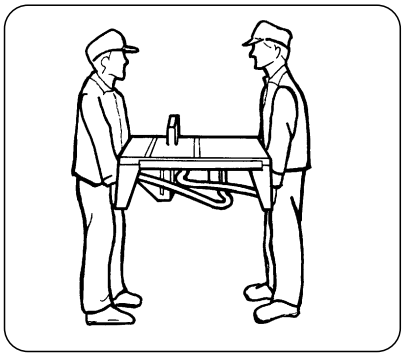


図　53

保守・点検

⚠ 警　告

- **点検・手入れの際は，必ずスイッチを切り，電源プラグを電源から抜いておいてください。**

1．のこ刃の交換……

⚠ 警　告

- **切れ味の悪くなったのこ刃を無理して使いますと，切断時の反力が大きくなり，けがの原因になります。**
  切れ味の低下したのこ刃をそのままお使いにならないでください。

のこ刃の切れ味が悪くなったまま使用になるとモーターに無理をかけることになり，また能率も落ちますから早めに新品と交換してください。

2．各部取付けネジの点検……

本ベンチ丸のこの各部品のうちゆるんでいるところがないかどうか定期的に点検してください。もしゆるんでいるところがありましたら，締め直してください。

ゆるんだままお使いになりますとけがの原因になります。

3．カーボンブラシの点検……

(1) モーター部(図3参照)には，消耗品であるカーボンブラシを使用しております。

カーボンブラシの摩耗が大きくなりますと，モーター故障の原因となりますので，長さが摩耗限度(図54参照)の6㎜ぐらいになりましたら新品と交換してください。

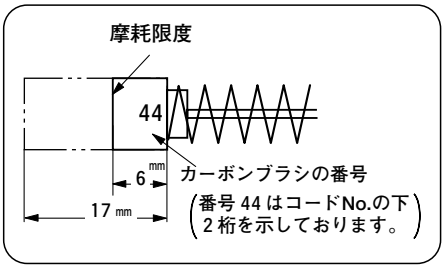


図　54

また，カーボンブラシはゴミなどを取り除いてきれいにし，ブラシホルダ内で自由にすべるようにしておいてください。

注 **• 新品と交換の際は，必ず図示の番号(44)の日立カーボンブラシをご使用ください。指定外のカーボンブラシを使用しますとブレーキがかからないことがあります。**

(2) **交換方法**

カーボンブラシは，手持ちの⊖ドライバーなどでブラシキャップ（図３参照）をはずしますと取り出せます。

4．モーター部（図３参照）の取扱いについて……

モーター部（図３参照）の巻線部分は，本機の心臓部ともいえます。巻線部分にキズをつけたり，油や水をつけたりしないよう十分注意してください。

注 **• モーター内部にゴミやほこりがたまると，故障の原因になります。50時間ぐらい使用しましたら，モーターを無負荷運転させて，湿気のない空気をテールカバーの風穴から吹き込んでください。ゴミやほこりの排出に効果があります。**

5．清　　掃……

ときどき本体についている切りくずや，ゴミを布などで拭き取ってください。

モーター部（図３参照）は水や油でぬらさないようにしてください。

6．製品や付属品の保管……

使用しない製品や付属品の保管場所として，下記のような場所は避け，安全で乾燥した場所に保管してください。

- ○子供の手が届いたり，簡単に持ち出せる場所
- ○軒先など雨がかかったり，湿気のある場所
- ○温度が急変する場所
- ○直射日光の当たる場所
- ○引火や爆発のおそれがある揮発性物質の置いてある場所

} このような場所には保管しない。

ご修理のときは

この機体は，厳密な精度で製造されています。もし正常に作動しなくなった場合は，決してご自分で修理をなさらないでお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご依頼ください。

ご不明のときは，裏表紙の営業拠点にご相談ください。

その他，部品ご入用の場合や取扱い上でお困りの点がありましたら，ご遠慮なくお問い合わせください。

※（外観などの一部を変更している場合があります。）

メ　　モ

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(No.)などを下欄にメモしておかれますと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日　　年　　月　　日	販売店
製造番号(No.)	電話番号

■ 日立工機電動工具センターにご用命のときは、下記の営業拠点にお問い合わせください。

● 全 国 営 業 拠 点

営業本部	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号（品川インターシティA棟）	☎(03) 5783-0626(代)
北海道支店	〒004-0053	札幌市厚別区厚別中央3条1丁目2番20号	☎(011) 896-1740(代)
東北支店	〒984-0002	仙台市若林区卸町東三丁目3番36号	☎(022) 288-8676(代)
関東支店	〒110-0016	東京都台東区台東四丁目11番4号（三井住友銀行御徒町ビル）	☎(03) 5812-6331(代)
中部支店	〒460-0008	名古屋市中区栄三丁目7番13号（コスモ栄ビル）	☎(052) 262-3811(代)
北陸支店	〒920-0058	金沢市示野中町一丁目163番	☎(076) 263-4311(代)
関西支店	〒663-8243	西宮市津門大箇町10番20号	☎(0798) 37-2665(代)
中国支店	〒730-0826	広島市中区南吉島二丁目3番7号	☎(082) 504-8282(代)
四国支店	〒760-0078	高松市今里町一丁目28番14号	☎(087) 863-6761(代)
九州支店	〒813-0062	福岡市東区松島四丁目8番5号	☎(092) 621-5772(代)

● **電動工具ご相談窓口** ── お買物相談などお気軽にお電話ください。

お客様相談センター　フリーダイヤル 0120-20 8822（無料）

※携帯電話からはご利用になれません。（土・日・祝日を除く　午前9：00 ～ 午後5：00）

電動工具ホームページ ── http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/

日立工機株式会社

912
部品コード　H99316607　N